



人類はひとつ 世界中に友情の  
橋をかけよう

MANKIND IS ONE - Build Bridges of Friendship  
Throughout the World



会長 中江 亮 幹事 佐藤元伸 副会長・クラブ奉仕 川村徳男 職業奉仕 嶺岸光吉 社会奉仕 山口篤之助 国際奉仕 黒谷正夫 青少年奉仕 津田晋介

出席報告：会員 70 名 出席 51 名 出席率 72.86% 前回出席率 78.57% 修正出席 58 名 確定出席率 82.86%

## ゲストスピーチ

## 環境浄化について

鶴岡市役所市民部長 梅 津 利 治 氏



R 日頃、ロータリークラブの皆様方には市政の各般にわたりまして、いろいろご協力頂いておりますことに對しまして厚く御礼申し上げます。

皆さんも御承知の通り、環境問題と申しますと、公害の問題、公衆衛生の問題、居住環境の問題、貧困の問題、食糧問題等実に幅の広い問題でございますので、今日は絞りました市の公害担当課に寄せられました公害苦情問題についてお話し申し上げたいと思います。また、時間がありませんでしたら、ゴミ処理問題についてもふれたいと思います。

公害問題につきましては、昭和30年代熊本県の水俣病、あるいは四日市市の喘息病疾患等の不幸な事件が発生しました。昭和40年代に入って経済の高度成長が続く中で、私たちの生活水準もそれ以前には想像も出来なかったような豊かな生活が可能となりました。しかしその反面、第2の水俣病といわれる阿賀野川の水銀汚染問題、あるいは富山県のイタイイタイ病というような産業公害が相次いで発生したことは、皆さまご承知のところであります。

こうした公害問題の発生を背景にして、口では、「公害対策基本法」や「公害関係法」が整備されてきたわけであります。そして公害問題につきましては、国と企業が一致協力をして公害防止のために20兆円を越えるともいわれる設備投資を積極的に行なって参りました。その結果、従来のように健康に障害を及ぼすような公害は現段階ではあまり聞かれなくなりました。このことは、私たちにとって幸せなことだと存じます。

しかし、近年の問題は近隣公害といわれる騒音の問題、振動、悪臭の問題、生活排水からの水質汚濁問題などが全国的に問題になっているのであります。こうした問題は、日常生活にも極めて関係の深いことからでありますし、これらの傾向は、本市の現

状も同様というふうに考えております。

ところで、本市の公害苦情につきまして、昭和56年度に市に寄せられた苦情件数は60件。昭和50年度に100件ありましてから、だんだん減少しております。県内他市の平均では、人口1,000人につき0.5件。本市では0.6件であり、若干上廻っています。

公害苦情の内容は、先程申し上げましたように、騒音、振動、悪臭等どちらかという主観的、心理的面がありまして個人差があります。だから件数が多いからといって、本市が他の市より環境が悪いとはいえないのであります。

苦情を種類別に申し上げますと、56年度では騒音が26件、悪臭が23件、大気汚染が6件、水質汚濁が4件となっており、騒音と悪臭で81%を占めております。これらの苦情はすべてが規制基準を超えているというわけではありませんが、快適な環境を保全するという立場から、市としての行政指導を心がけて参りたいと考えます。

騒音苦情の内容は、商業宣伝によるスピーカーの騒音が最も多くて8件。製造加工等の圧搾機等の騒音が5件、杭打作業の騒音5件。自動車の深夜の空ふかし騒音も苦情となっています。26件の騒音苦情は、騒音の発生源がはっきりしているものが殆んどでありますので、環境基準を超えるものについては発生源の人に対しては指導、解決しております。

悪臭で最も多いのは、畜産業に対するもので8件一般家庭の浄化槽の排水によるもの5件、食品製造業の排水に伴う悪臭等であります。

悪臭の測定は現在でも「人の鼻」でやっておりますので、測定がむずかしく、悪臭問題は解決がなかなか困難で、今後の課題であります。ただ脱臭剤が出来たおかげで、企業でも一般家庭でも近隣への悪臭感をやわらげることが可能であります。鶴岡市の尿処理施設、ゴミ処理場は7号線沿いにあり、悪臭を放っておりましたが、私たちとしても労働環境の面からも脱臭装置は金をかけてもやるべきだと考えました。この尿処理施設は昭和49年大幅改造しましたが、近年処理能力低下のため国庫補助を得て昨年と今年度の継続事業で脱臭装置を含めた改造を

庄内空港の建設を推進しましょう

やっておるところであります。この脱臭は、薬品洗浄方式でやっております。完全脱臭には活性炭方式が良いといわれておりますが、この方は運営コストがかかります。薬品洗浄方式でも十分な脱臭効果が可能であります。この脱臭装置だけの費用は約4千万円であります。

悪臭問題は市、企業、一般家庭を問わず、コストの面もありますが、規制のみで論ずるのでなく、話し合いの中から、出来ることから、臭気をなくする努力をして行きたいものと考えます。

最後にゴミ処理問題にふれたいと思います。

経済の高度成長に伴ない、ゴミの排出量はドンドン増えてまいりました。近年になってまたゴミの増加率は落ちてきましたが、これは景気低迷による影響と、市の呼びかけによるゴミの減量運動、ゴミの再資源運動が効を奏した現われではないかと思えます。

行政として今悩んでいる問題があります。可燃ゴミにつきましては、現在145トンの消却能力を持つ施設があります。しかしこれは古くなりまして、昭和60年頃から3年連続で新炉を建設しなければなりません。この費用が約30億。鶴岡市庁舎(約27億)を上廻る費用です。

一方不燃ゴミの問題。この最終処分場の用地確保が非常に困難を極めております。全国的にもこの種のもの「迷惑施設」として用地確保が極めて困難とされておりますし、鶴岡地区のゴミ処理問題のうちで、最も困難な課題であります。

現在鶴岡市他6カ町村衛生処理組合で、ゴミを処理していますが、この最終処分場は藤島町と羽黒町の境界にあります柳久瀬地区と、櫛引町の黒川地区の楯出の埋立処分場であります。

本来藤島地区は、本年の10月頃までで埋立処分場がなくなるということでありましたので、昨年急拠櫛引町にお願いして1年間の所をお借りしました。従って昭和58年度中は何とか処理をしたいと考えております。昭和59年度からの埋立処分場がなくなるわけですが、未だ決まっております。このために関係者は用地確保のために日夜奔走しているのが現状であります。

昨年10月、今泉地区に絞って交渉を続けてきましたが、今なお合意に達していません。こうした問題は本来、迷惑をかけるのも市民、迷惑を受けるのも市民であるとの理解にたつて、了解を得たいと懸命に交渉しております。しかし公害が出る、水質が汚濁されるということで反対されます。これからの最終処分場は、技術の進歩と、専門家の設計及び国の指導規制で公害のない処分場となるわけですが、規制のなかった時代に出来た処分場のやり方と対比されて、市の計画と方針が信用されない悩みがあります。

埋立処分用地確保のための行政の苦衷を十分ご理解いただき、ご協力を賜りたいと存じます。

快適な生活環境を推進するにあたって、抱える問題の解決は、行政と事業者の努力は大切であります。住民の理解と協力もまた極めて大切なのであります。

## ゲストスピーカー紹介

山口篤之助 君

略歴	昭和36年	鶴岡市役所入所	納税課
	昭和38年		人事課
	昭和50年		人事課長
	昭和55年		清掃事業部長
	昭和56年		市民部長

## 会長報告

中江 亮 君

- 先週の例会で申し上げましたとおり、鹿児島西R.C.の創立20周年記念式典のご案内が届いていますが、本日の理事会で会長・幹事をはじめ10名程度の慶祝団を派遣すべきであるという結論であります。詳しい事について後程幹事の方からお話がある筈であります。
- 商工会議所主催の田川地区珠算大会について協力の要請が来ていますので、理事会のご承認をいただいて5,000円ご寄付する事にしました。
- 次年度の庄内分区分区代理に酒田R.C.の伊藤政一さんが指名されました。

## 幹事報告

佐藤元伸 君

- 会報到着  
鹿児島西R.C. 東京R.C. 鶴岡西R.C.
- 鶴岡ローターアクト委員会  
2月第2例会 2月16日(木)  
青年センター2階ロビー  
PM. 7:00~8:30迄
- 青森R.C.より  
斎藤堅治P.G.の「落穂集」の申込依頼到着
- 鹿児島西R.C.20周年記念式典への参加の件  
日時 3月24日(木) 受付15時より  
申込みを2月15日(火)の例会迄お願いします。

## 会長エレクトより報告

内山 喜一 君

来年度(1983.7~1986.6)の理事及び理事会のメンバーを発表いたします。

理事は下記の8名の方々です。

内山 喜一	(会長)
佐藤 順治	(副会長)
川村 徳男	(会長エレクト)
石川 寿男	(職業奉仕)
佐藤 衛	(社会奉仕)
三井 健	(国際奉仕)
小池 繁治	(青少年奉仕)
中江 亮	(直前会長)

理事会のメンバーは、上記8名の理事に下記の2名を含めた10名で構成されます。

風間 真一	(会計)
三浦 悌三	(幹事)

## スマイル

張紹淵君 2月1日のたら汁会の盛会に感謝して

## ビジター

鶴岡西R.C. 菅原年雄君・野口 弥君  
井上 彬君・阿部光男君  
(今週の担当者 中江 哲夫)